

調査対象物質	分析法フローチャート	備考
[5]キノリン	<p><b>【水質】</b></p> <pre> graph TD     A[水質試料 1,000mL] --&gt; B[振とう抽出 塩化ナトリウム 30g ジクロロメタン 100mL (1回目)、50mL (2回目)]     C[サロゲート溶液添加 キノリン-d7 1mg/L 50µL] --&gt; B     B --&gt; D[脱水 無水硫酸ナトリウム]     D --&gt; E[濃縮 ロータリーエバポレータ 窒素パージ 2mLまで]     E --&gt; F[転溶・濃縮注1 ヘキサン 50mL ロータリーエバポレータ 窒素パージ 2mLまで]     F --&gt; G[カラム クリーンアップ注1 注2 注3 注5 フロリジール 6g 洗浄: 50%ジクロロメタン/ヘキサン 60mL 洗浄: 100%ジクロロメタン 30mL 溶出: 100%ジクロロメタン 90mL注4]     H[濃縮注1 ロータリーエバポレータ 窒素パージ 1mLまで] --&gt; G     I[内標準添加 ナフタレン-d8 1mg/L 50µL] --&gt; H     G --&gt; J[定容 1mL注5]     J --&gt; K[GC/MS注5-SIM] </pre> <p>&lt;注&gt;次に示す方法を採用した例もあった。</p> <p>1:ヘキサンによる転溶・濃縮とそれに続くカラムクリーンアップ、濃縮は行わなかった。また、測定機器としてMSはJMS-K9、カラムはDB-17 (30m×0.25mm、0.5µm)を使用した。</p> <p>2,3:カラムクリーンアップを省略した。</p> <p>4:カラムクリーンアップの条件を「洗浄:ジクロロメタン100mL、溶出:10%アセトン含有ヘキサン50mL」に変更した。</p> <p>5:カラムクリーンアップを省略し、定容は0.3mLとした。また、HRGC/HRMS-SIM(高分解能MS)で測定した。</p> <p style="text-align: center;">「平成18年度化学物質分析法開発調査報告書」 準拠</p>	<p>&lt;分析原理&gt; GC/MS-<sup>注5</sup>SIM</p> <p>&lt;検出下限値&gt; 【水質】 (ng/L) [5] 1.1</p> <p>&lt;分析条件&gt; 機器 GC : HP 6890 MS : HP 5973 MSD<sup>注1</sup> カラム DB-5MS<sup>注1</sup> 30m×0.25mm、0.25µm<sup>注1</sup></p>